進化は万能である　　マッド・リドレー　　早川書房

第14章　宗教の進化

**序章**（担当：近藤）

・アダムと神、どちらがどちらを創造しているのか

　→世界中のほとんどの人が創造しているのは神であると思うことになっているが、古代世界の歴史を学んだ人にとっては人が神を創造したことは明白

・宗教的衝動は伝統的な宗教に限られているわけではない

　→幽霊、ホロスコープ、ウィジャ盤、ガイアなどに生命を与える

・宗教的衝動によってあらゆる形態の迷信の説明がつく

　→「志向姿勢」の表れ

・全能の神の気まぐれに帰することを望む衝動ほどトップダウンのものはないように見えるかもしれないが、実はボトムアップの創発的現象である　例：キリスト教台頭の歴史

**予想どおりの神々**

・神々が人為的なものであることを示すさらなる証拠は神々の進化の歴史から得られる

・神々は自らが身を置くに至った環境に適応させることで進化した

・神々は意識的にも無意識的にも人為的なものであり、人間が創造しただけでなく、人間が進化させたものでもあった

**預言者の進化**

・ムハンマドの経歴がほかの宗教の創始者の人生についてよりもはるかによくわかっているというのは本当なのか？

　→ムハンマドの経歴についての情報はすべて怪しい

・ムハンマドがイスラム教を突然奇跡的に無から生み出したという話が語られる

　→実際は宿敵国の宗教と意図的に区別するために、ムハンマドを預言者と呼び、この預言者の伝説の育成に意図的に努めはじめた

・イスラム教はアラビア人による征服の原因というよりはむしろ結果である

・手の込んだバックストーリーを構築し本来の由来を覆い隠したのはイスラム教だけの話ではない

**ミステリーサークル学カルト**

・ミステリーサークルは人為的なものなのは明らか

　それでもミステリーサークルの熱狂は高まる

・人為的なミステリーサークルをミステリーサークル学者に本物かどうかを判定させる

　→人間が作ったはずがないと断言し間違えた

・学者たちはしだいに世間から忘れ去られ、今やミステリーサークルはほとんどが人為的なものであるとされているが狂信者たちは相変わらず存在する

**感想**

あらゆるものが神の影響で、神が万物を支配するという考えはトップダウンでしかないと思っていたのでボトムアップの創発的現象であるといわれ驚いた。ムハンマドの例から「宗教はどれもみな、私には人為的なものに見える」という著者の意見に頷けると思った。

**迷信の誘惑**（担当：山本）

Ex)地震

この傾向が強い

➣宗教の特徴

・進化してきた

・現在存在する宗教は、多数のバリエーションが淘汰され、その中でも残ったもの

・人的組織におけるトップダウン型

➣人間が「志向姿勢」を持つのは、進化の視点に立つと理に適っている←なぜ

➣神々は「外」ではなく「頭の中」に存在する

**生死にかかわる妄想**

➣信じることをやめたら、なんでも信じてしまう←どういうこと？

地上に起こりうる超常現象←科学的な裏付けが必ずある(科学)

 　←神々による力(ニセ科学)

➣神秘主義の特徴

・反駁できない、権威に訴える、逸話に過度に依存、大多数の意見、道徳的に高い地位を占める$≒$宗教

➣制度としての科学は、常に確証バイアスの誘惑に苦しめられてきた←どういうこと？

**気候の神々**

➣二酸化炭素の排出が、危険な地球温暖化を引き起こす←迷信より科学的

➣二酸化炭素の排出は、気候の「調節つまみ」の働きをする＝気候の神

➣二酸化炭素濃度は、気温の上昇(下降)を追うかたちで上昇(下降)している

➣過度に単純な原因を探し求めるのは、宗教の特徴

➣壊滅的な温暖化は起きそうにないが、可能性としてあるのなら犠牲を払ってでもできることはすべき←危険

・高潔な目的は、残忍な手段を正当化するため

➣人間は志向姿勢を持っている。そのため、お気に入りの科学、宗教があればそれに熱中し、異なる意見を排除する。そのようなことは、「伝統」という形で続いてきた

**気象の神々**

➣洪水の原因は、神の罰によるもの←まともな政治家が支持した根拠は？

神の罰によるものだと反証できないじゃん。だから科学的

➣あらゆる自然災害を、二酸化炭素排出のせいにする(＝気候の神とみなす)傾向が生まれ、それが一旦は落ち着き、再び自然災害と二酸化炭素排出のお互いに罪をなすりつけ合えることができるようになった

**感想**

　この章では二酸化炭素排出をあたかも「気候の神々」と見なしている現在に、筆者は憤りを隠せないでいる。気象の神々の項で、政治家を冷笑しているのが根拠だろう。

この章に限ったことではないが、例えが限定的すぎるため他の事例を考えてみる。ハロウィンを例にとろう。元々ハロウィンは古代ケルト人が秋の収穫を祝い、悪霊を追い出す宗教的儀式として行われていたものだ。それがアメリカに民事行事として定着し、現在ではもはや宗教的儀式はほとんど取り除かれている。日本においては「アメリカの大衆文化」として受け止めており、実際その体は仮装大会と化している。なるほど、確かに「人が神を創造した」という筆者の主張は筋が通っている。

また、他の事例はどうなのか気になる章であった。